

(囃中丸の中の狂歌)

花の屋香寿

楽やからほくれる

菓子のかたものに

ふたを

あけたる折も大入

引かけた

暮より酒の道具たて

升へもいりの多き猿若

天満の門都竜

旭の屋笑和

あさ日かけさすか

若木のさかり

かな

いつれおとらぬ梅の花笑

くみ流す湯も焚捨の

楽屋風呂

帰り初日に

ふたは明けり

梅屋覇寿